

## はじめに

太田南地区の風土や文化を歴史と民俗学の観点から調査・研究する太田郷土史誌研究会が2014年5月に発足して9年目になります。

これまでの8年間、主に太田南地区に残された史跡や貴重な資料を収集・研究し、パンフレット等にまとめ、地区の皆様にお知らせしてまいりました。

特に、2015年度は、高松市の「ゆめづくり事業」に参画し、それまでの蓄積をリーフレット・資料集などにまとめるとともに、太田南コミュニティセンターに総合案内板を、各史跡に現地説明板を設置し、地区住民の方に太田南地区の風土や文化を広く知っていただくツールを整備しました。

2022年度は、コロナ禍の下ではありましたが、7月の学童クラブすりーふれんずへの協力、「夏休み子ども教室」、太田南小学校での秋祭り、太田南小学校、太田中学校の地域学習への協力、「歴史と出水巡りウォーキング」を精力的に行いました。参加人数も240人にのぼり、充実した1年となりました。

これも、太田南コミュニティセンター、関係個所のコロナ対策の賜物と感謝しております。

ここに、2022年度の活動報告書をまとめることができました。この活動が地域の皆様に少しでもお役に立てれば幸いに思っております。

太田郷土史誌研究会会長 中澤健二

# 目次

<b>第Ⅰ編 活動編</b> .....	1
1. 2022年度のあゆみ.....	2
2. 年度計画.....	3
(1) 活動事業名.....	3
(2) 活動計画.....	3
(3) 予算.....	3
3. 高松ケーブルテレビ取材への協力①(地域紹介).....	4
4. 高松ケーブルテレビ取材への協力②(讃岐由来帖).....	5
5. 2022年度太田郷土史誌研究会総会.....	6
6. 学童クラブすりーふれんずへの協力.....	8
7. 夏休みこども教室「歴史講座」(センター講座への協力).....	9
8. 旧御殿水源地(高松市水道資料館)での研修.....	11
9. 太田南小学校地域学習への協力.....	13
10. 太田南秋まつり2022(展示パネル4枚).....	14
11. 太田南の史跡と出水巡りウォーク.....	15
12. 太田中学校1年団 地域交流学習への協力.....	16
<b>第Ⅱ編 調査研究編</b> .....	17
2. 調査研究.....	18
(1) 太田城発掘調査報告(その2).....	安藤みどり 18
(2) 仏生山「百相(もまい城)」を歩く.....	安藤みどり 20
(3) 良田郷の湧水めぐりと遍路道に行く.....	安藤みどり 28

# 第 I 編 活動編

## 1. 2022年度のあゆみ

2022年4月6日(水)	コミねっとTV収録(地域紹介)
2022年4月8日(金)	4月度 郷土史誌研究会(図書室)
2022年5月6日(金)	5月度 郷土史誌研究会(2階ホール)
2022年5月25日(水)	コミねっとTV収録(讃岐由来帖)
2022年6月3日(金)	6月度 郷土史誌研究会、2022年度同会(2階ホール)
2022年7月1日(金)	7月度 郷土史誌研究会(2階ホール)
2022年7月28日(木)	学童クラブスリーフレンズへの協力 郷土史誌研究会
2022年8月12日(金)	8月度 郷土史誌研究会(2階ホール)
2022年8月19日(金)	夏休みこども教室「歴史講座」(センター講座への協力)
2022年9月2日(金)	9月度 郷土史誌研究会(2階ホール)
2022年9月21日(水)	旧御殿水源地(高松市水道資料館)での研修
2022年10月7日(金)	10月度 郷土史誌研究会(図書室)
2022年10月11日(火)	太田南小学校地域学習への協力
2022年10月30日(日)	太田南秋祭り(展示パネル4枚)
2022年11月5日(土)	太田南の史跡と出水巡りウォーク
2022年11月17日(木)	太田中学校1年団 地域交流学習への協力 (太田南の史跡と出水巡りウォーク)
2022年11月18日(金)	11月度 郷土史誌研究会(2階ホール)
2022年12月2日(金)	12月度 郷土史誌研究会(2階ホール)
2023年1月6日(金)	1月度 郷土史誌研究会(2階ホール)
2023年2月3日(金)	2月度 郷土史誌研究会(2階ホール)
2023年3月3日(金)	3月度 郷土史誌研究会(2階ホール)

## 2. 年度計画

### (1) 活動事業名

2022 年度 郷土史誌探訪事業

### (2) 活動計画

2022 年度は 2021 年度に引き続き、太田南地区の歴史や民俗等を調査し、成果を地区の人々に広く伝える。

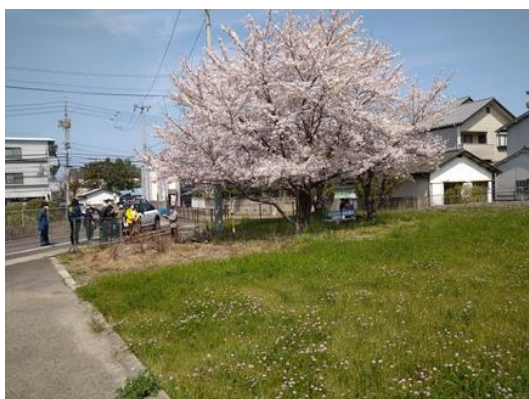
- 1) 地域に残っている写真や資料の収集、記録、保存（通年）
- 2) 夏休みこども教室（コミセン講座）
- 3) 太田郷土史誌研究会メンバーの現地研修会
- 4) 太田南地区文化祭への出展
- 5) 太田南の史跡と出水巡りウォーク開催
- 6) 外部講師を招いての交流会
  - ・ 第 3 回出水を語る会（令和 5 年度に延期）
  - ・ 出水に関係する地質の勉強（令和 5 年 3 月 25 日実施、令和 5 年度報告）
- 7) 「太田南の史誌」の編纂準備
- 8) 2022 年度 活動報告書作成

### (3) 予算

高松市交付金	120,150 円
地元負担金	4,000 円
合 計	124,150 円

### 3. 高松ケーブルテレビ取材への協力①（地域紹介）

高松市の各地区を紹介する番組（コミねっとTV）で、太田南コミュニティセンター辺りの「映える」スポットを紹介した。令和4年4月6日（水）13時にコミュニティセンターに集合し、①巫女神出水の桜とレンゲ畑、②廣田八幡神社、③太田池・競馬場跡碑の3カ所で取材。太田南コミュニティセンターから滝本センター長が、太田郷土史誌研究会から、中澤健二、大住教夫、十川信孝、井上和也、三浦真里、伊澤貴大、古澤幸夫の7名が参加。また、廣田八幡神社では桜木宮司からも説明をいただいた。また、太田競馬場跡碑の説明後、太田郷土史誌研究会でホームページの立ち上げを説明した。放映は、令和4年5月いっぱい行われた。



#### 4. 高松ケーブルテレビ取材への協力②（讃岐由来帖）

「太田南の昔ばなし」第1集「たぬき編」の物語のスポットを訪ねた。令和4年5月25日（水）13時にコミュニティセンターに集合し、

- ①西法寺（村の大事を救ったたぬきのゴンタ）、
- ②マリア幼稚園の南（西の沢の悪タヌキ）、
- ③金毘羅さん（浄願寺「白ハゲ」の一の子分）、
- ④嫁田出水（よめなのたぬき）、
- ⑤廣田八幡神社（おたの参り）を巡った。

放映は、令和4年7月いっぱい行われた。



## 5. 2022年度太田郷土史誌研究会総会

6月3日(金)、2022年度太田郷土史誌研究会の総会を開催。会則の一部改正、会員名簿、役員を選出、2021年度決算と2022年度予算が承認された。

2022年度の役員は、会長：中澤健二、副会長：明石豊重、事務局長：古澤幸夫、会計：安藤みどり、監査：真鍋正彦が選出された。

### 第1章 総 則 (改定後の会則)

(名称)

第1条 本会は、太田郷土史誌研究会(以下「本会」と称し、太田南地区コミュニティ協議会 人・文化育成部に所属する。

(事務局)

第2条 本会の事務局は、太田南コミュニティセンター内に置く。

(目的)

第3条 本会は、高松市太田南地区及びその近郊の風土や文化を 歴史及び地誌の観点 から調査研究を行い、将来に繋ぐことを目的とする。

(活動内容)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の各号に該当する事業を行う

- 1号 地域に残された 史跡や貴重な資料を収集・研究し、活動報告書を作成して、地域の方々にフィードバックする。
- 2号 本会は、地区の昔話・民話を復活させ、地域の方や子供達に身近に感じて貰えるよう、民話や出水をたどるウォーキング等を実施する。
- 3号 講師を迎えて 地区民を対象とした、講演会を実施する
- 4号 その他 第3条の目的達成の為、必要と思われる事業を行う。

### 第2章 会 員

(入会)

第5条 本会に会員として入会希望者は、本会に申出て 会員の承認を得るものとする。

(会費)

第6条 本会の会員は、定める会費を納入しなければならない。

2. 年会費：1000円とする。

(退会)

第7条 本会の会員は、会長に退会届を提出すれば、任意に退会することができる。

2. 会員が 次の各号のいずれかに該当するときは、退会したものとみなす。
  - 1号 会員本人が死亡したとき
  - 2号 会費を 納入しないとき

(除名)

第8条 会員が次の号に該当するときは、総会において会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。

- 1号 本会の名誉を著しく損し、また設立の趣旨に反する行為をしたとき。

### 第3章 役 員

(役員)

第9条 本会に次の各項に掲げる役員を置く。

- |      |    |
|------|----|
| 会長   | 1名 |
| 副会長  | 1名 |
| 事務局長 | 1名 |
| 会計   | 1名 |
| 監査   | 1名 |

2. 前項の役員は、総会において 選出する。



(役員職務)

- 第10条 会長は、会を代表して 会務を統括する。
2. 副会長は、会長を補佐し 会長が不在の時には、その職務を代行する。
  3. 事務局長は、本会の事務全般を担当し、会長・副会長が不在の時には、その職務を代行する。
  4. 会計は、本会の出納事務を 担当する。
  5. 監査は、本会の会計を 監査する。

(役員選任)

- 第11条 会長・副会長の選任は、会員から立候補及び推薦された者の中から、総会にて選出する。
2. 事務局長は、総会にて選出する。
  3. 会計は、総会にて選出する。
  4. 監査は、総会にて選出する。
  5. 役員が 任期中に退会したときは、会長が指名する。

(役員任期)

- 第12条 役員任期は、2年とする。但し再任を妨げない。役員が退会したとき、後任の任期は「前任者の残り任期」とする。

#### 第4章 会議

(総会)

- 第13条 本会の総会は、会員をもって構成し毎年4月に開催する定時総会と 臨時総会とする。
2. 臨時総会は、役員会が必要としたとき または全会員の 5分の1以上から 会議の目的たる事項を示した請求があったとき、開催する。
  3. 総会は、次の各号に掲げる事項について、審議し 議決する。
    - 1号 会則・事業等の改廃
    - 2号 事業計画並びに収支予算及び決算
    - 3号 本会の解散
    - 4号 役員選任及び解任
    - 5号 その他 本会の運営に関し、重要な事項
  4. 本会の総会は、会長が招集する。
  5. 総会の議長は、会長がこれに当たる。
  6. 総会の議決は、会員の2分の1以上の出席で成立し、出席者の過半数で議決する。なお委任状を提出した会員は、出席者とみなす。
  7. 議決の結果 賛否同数のときは、議長が決定する。

(役員会)

- 第14条 役員会は、会長・副会長・事務局長・会計・監査 で構成する。
2. 役員会は、会長が招集する。
  3. 役員会は 会長が議長となり、次に掲げる事項を審議して 議決する。
    - 1号 総会に 付すべき事項
    - 2号 総会において 議決された事項の、執行に関する事項
    - 3号 その他 総会の議決を要しない、会務の執行に関する事項

(月例会)

- 第15条 本会の会議は、原則 毎月第1金曜日に開催する。

#### 第5章 会計

(経費)

- 第16条 本会の経費は、会費・補助金・その他の収入をもって これにあてる。
2. 本会の事業年度及び会計年度は、毎年4月1日に始まり 翌年3月31日に終了する。
  3. 前項の会計年度に係る決算終了後、監査を経て 決算報告書を作成する。
  4. 本会は、会員に対して 総会時に会計報告を行う。

#### 第6章 雑則

(雑則)

- 第17条 この会則に定めるもののほか、必要な事項は 総会の議決を経て、会長が別に定める。

(会則の施行)

- 第18条 本会の会則は、令和4年 6月 3日から施行する。

## 6. 学童クラブすりーふれんずへの協力

### 1. 日時

2022年7月28日(木) 8:50 すりーふれんず集合 9時過ぎ出発 11:00 頃帰着

### 2. 参加者 (各班太田郷土史誌研究会のメンバー1~2名が案内、小さい学年から出発)

学童クラブすりーふれんず : 学童6班(各班9~10人) 教師1~2人/班

太田郷土史誌研究会 : 8人(1~2人/班)

(1班:中澤、明石 2班:山下 3班:安藤 4班:真鍋、伊澤 5班:古澤 6班:大住)

晴天で暑かったが、全員無事帰着した。

(行き) 学童クラブ~廣田八幡神社 事前にすりーふれんずで道路の安全確認済

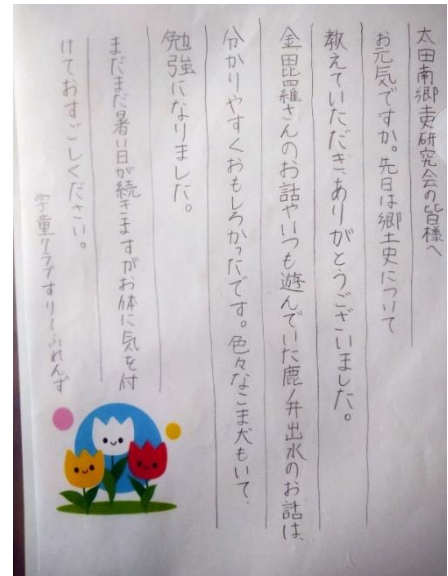


(史跡等) 金毘羅さん、太田天満宮、長屋門、道池地蔵、廣田八幡神社

(帰り) 郷土史誌研究会で復路案内

廣田八幡神社 → 参道 → 横断歩道 → 百華幼稚園北東角左折  
→ 皿井公園 → 皿井公園北東角から東へ → 線路を渡り突当りを右折  
→ 30m南を左折 → 合子出水 → 合子出水から東へ突当りを右折  
→ 50m南を左折 → 直進すると鹿ノ井出水 → 学童クラブ

(史跡等) 参道、皿井公園、皿井新出水、合子出水、鹿ノ井出水



## 7. 夏休みこども教室「歴史講座」(センター講座への協力)

- (1) 日 時           2022年8月19日(金)       10時～12時  
(2) 場 所           コミュニティセンター2階ホール  
(3) 参加者           子ども11人(内小学3年生7人)  
                      大人8人(内1名は太田南小学校3年生担任)  
                      郷土史誌研究会8人

### (4) プログラム

- ①開会の挨拶
- ②太田南の史跡について(太田南探訪MAP、太田南の地区の昔と今の地図)
- ③太田南の出水について(鹿ノ井出水パンフレット、出水ガイドブックのスライド)
- ④太田南の昔ばなし2話(ゴンタは祭りが大好き、浄願寺の「白ハゲ」の一の子  
朗読形式、袴や蓑の図を使用)
- ⑤太田城跡の発掘について(スライド)  
(休憩)
- ⑥聞きたいこと

### (5) 感 想

2020年と同様、開催時期を盆明けにし、講座を前半の「説明タイム」と後半の「質問タイム」に分け、「質問タイム」には郷土誌史研究会のメンバーが子どもたちに話しかける形式とした。

前半の説明と後半の質問を通じて、より深く太田南を理解したのではないかと手ごたえを感じた。

また、太田南小学校3年生の担任の先生にも参加いただいた。今後の学習で、太田大根の栽培や太田まんじゅうの制作、昔ばなしを聞いて感じたことを絵に描くなど、参加型の学習を考えており、協力をお願いされた。





## 8. 旧御殿水源地（高松市水道資料館）での研修

- (1) 日時 2021年9月21日（水）
- (2) 参加者 8人
- (3) 当日の日程と内容

9:30 コミュニティーセンター集合、出発

9:50 旧御殿水源地到着

10:00～11:30 高松ブロック統括センターの樋口さんなど3人の方の案内で研修

旧御殿水源地とは、高松市の近代水道創設のために建設された浄水場で、1921（大正10）年に給水を開始した当時の施設がほぼ創建当時のまま現存しているという大変貴重な場所です。

しかも、「集水埋渠東方人孔（しゅうすいまいきょとうほうじんこう）」と「西方寺配水池」は100年たった今も現役の施設。北門門柱と敷地造成のため花崗岩の割石で築いた擁壁もしっかり役目を果たしています。

国登録有形文化財である各施設の案内と資料館での詳しい説明、事務所での高松市の水道についてのビデオ視聴と中身の濃い研修でした。



赤レンガで築かれた「集水埋渠東方人孔」（左） 水路に沿って造られた擁壁（中）  
白地に青の配色が爽やかな大正6年に竣工した事務所。玄関上の半円形の破風が印象的（右）





台風一過、急に秋めいた絶好の研修日和。統括センターの方々にはわざわざ番丁の庁舎から来ていただき、いろいろ質問にも答えてもらうなどありがとうございました。高松の近代水道がコレラや腸チフスなどの流行から市民を守るために創設されたこと。1914年に水道事業に着手したもののその年から始まった第一次世界大戦や1918年の米騒動などの影響で工事が大幅に遅れ、ようやく1921（大正10）年に給水を開始。それでも全国で40番目（大変早い！）であったことなどを知ることができました。それにしても水源を香東川の伏流水（自然のろ過が行われ水質が良い）としたのは卓見であったと思います。「安心でおいしい水道水のため、川や池の水を汚さない」「南海トラフ地震などに備え一人1日3ℓの水を3日分準備」いずれも肝に銘じます。

## 9. 太田南小学校地域学習への協力

1. 日 時 2022年10月11日(火)

7時50分

太田南小学校玄関前 集合

8時15分～9時00分

1時限目 2クラス

9時10分～9時55分

2時限目 2クラス

2. 場 所 太田南小学校3年 各クラス教室

3. 参加者(太田郷土史誌研究会)

Aグループ:十川、古澤、三浦、真鍋

Bグループ:大住、中澤、安藤、伊澤

4. プログラム

(1) 太田大根について 8時15分～20分 目途 十川、大住

- ・土地がよく肥えていたことや水が豊富にあったことにも触れ話した。
- ・農業体験学習で、種まき体験をしたところで、芽がでたことや、今後の世話の仕方や調理のことなども話した。

(2) ゴンタについて 8時35分～20分 程度

古澤、三浦、真鍋(Aグループ)、中澤、安藤、伊澤(Bグループ)

- ・昔ばなし、「ゴンタは祭りが大好き」「村の大事を救ったたぬきのゴンタ」を、ゴンタに愛着を持ってもらうように、分かりやすく話した。

5. 感想

太田大根は農業体験中もあって生徒たちの関心も高く、またゴンタについては、知らない生徒はおらず、活発な授業であった。テーマの選び方が良かった。

6. 準備したもの

(太田南小学校で準備)

・太田南探訪MAP(黒板に貼り付け)

・太田大根出荷の絵(藤村先生)・電子黒板で表示

・大根の苗の写真(農業体験実習)・電子黒板で表示

(郷土史誌研究会で準備)

・蓑と袴の絵(黒板に貼り付け)



7. 発表会

令和5年2月9日(木)学習発表会への案内があり、十川、安藤、真鍋、古澤が見学した。グループ毎に調査したことを、クイズなどを交えて上手に発表されていた。

(1組) ①出水について ②たぬきばやしについて ③神社、寺について ④太田大根のレシピについて ⑤太田大根を有名にするほうほうについて ⑥太田大根のれきしについて ⑦太田大根の育て方 ⑧ゴン太くんについて

(2組) ①西法寺・光臨寺 ②ひろた八まん神社・太田けい場場ひ ③しかノ井出水 ④地ぞう・茶園ぼ地 ⑤くま野大ごんげん・太田天まんぐう ⑥太田南地区の出水

(3組) ①ゴン太君のれきし ②ゴン太君ってどんなひと? ③ゴン太君のしょうかい ④鹿野井出水 ⑤出水クイズ ⑥太田大根 ⑦太田まんじゅう

(4組) ①太田大根 ②太田南たぬきばやし ③太田まんじゅう ④太田南、太田南小学校のれきし ⑤ゴン太くん

10. 太田南秋まつり2022 (展示パネル4枚)

10月29日(土)、30日(日)に太田南小学校で実施された「太田南秋まつり2022」にパネル4枚を展示して太田郷土史誌研究会の活動を紹介した。

また、昔ばなし「ゴンタは祭りが大好き」をテーマに、QRコードを使ってのスタンプラリーが企画され、協力した。



**太田郷土史誌研究会(会員)**  
地域の歴史と文化を調べ、将来太田史誌の編纂を目指しています。  
<2021年10月から2022年9月までの主な活動>

① 資料収集 調査 研修など

② 太田南の史跡と 出水めぐり、歴史ウォークなど

③ 地域学習への協力

④ 「活動報告書」の作成  
ホームページで公開(ぜひごらん下さい!)  
(太田郷土史誌研究会で検索)

**太田南地区の主な史跡**  
11月5日(土)に行う歴史ウォークで史跡を中心に紹介します。

② 廣田神社本殿(佐)と若宮神社(右)

③ 花袋神社(佐)

④ 火伏の神 萩葉権現 (佐) (佐)

⑤ 復川出水

⑥ 学問の神は 太田天満宮

⑦ 庄助洞出水 (佐)

⑧ 江戸の近くにある 前田家の長屋門(佐)と 田井出水(佐)

⑨ 歴史ウォーク参加者募集中 一緒に歩きましょう(11月5日 土) ※太田南探訪MAPを自由にお持ち下さい!

⑩ 「ゴンタ通信」に史跡の紹介を連載中です。(第10号)

**太田南地区の出水を調べよう**

出水の数 現在19の出水があります。江戸時代には33もあったそうです。

出水がでる所は 太田南地区は地下水面が地表から数m下にあるので、地面が急に低くなっている所から地下水が湧きます。これが出水です。

⑭ 上免出水(5月)

⑮ 天吉出水(6月)

⑯ 冬に枯れる 冬でも枯れない 出水と枯れない出水があるのってどう? 冬でも枯れない!

⑰ 鹿ノ井出水の今と昔 (今) (昔)

出水は何に使っていたの? 太田南地区には大きな川がないので、主に農業用水として出水の水が使われていました。

**たぬきにまつわる昔話**

⑩ 浄願寺の白ハゲの一寸法師 人助けの話がよく知られるたぬきがすんでいた、人のうたででは、情の深い浄願寺たぬきの一寸法師の話。たぬきがいなくなった後、村人がおれにお墓を作ったというお話。現在は金野屋敷にたぬきの墓がある。

⑪ 村の大事を救ったたぬきの水きんで苦しむゴンタ 村人たちを助けるために、ゴンタ仲間を引き連れ大勝負に出たというお話。西法寺のお成り門

⑫ ゴンタは祭りが大好き ゴンタの願いは、村人と一緒に祭りを楽しむこと。王屋さんとまねて、祭りに参加して行くことを考えたゴンタ。全文はQRコードが読んでも!

⑬ おたの祭り おたの、これはたぬきのこと。たぬきは子沢山(どの子も元気で育つ)いことから、子ども授かりの夫婦が、娘かけ奉りを行なったというお話。



## 1 1. 太田南の史跡と出水巡りウォーク

(1) 日 時 2022年11月5日(土) 9:30 コミュニティセンター集合  
受付、会長あいさつ、コース説明後出発 11:30 センター着後解散

(2) 参加者 一般 7名  
太田郷土史誌研究会 6名(中澤、明石、安藤、三浦、山下、古澤)

### (3) ウォーキングコース(北コース)

① 太田競馬場跡 ⇒ ② 参道 ⇒ ③ 廣田八幡神社(トイレ) ⇒  
④ 若宮御神体出土地 ⇒ ⑤ 秋葉権現 ⇒ ⑥ 須川出水 ⇒  
⑦ 太田天満宮、太田城跡 ⇒ ⑧ 庄助洞出水 ⇒ (皿井公園:トイレ) ⇒  
⑨ 香河小学校跡 ⇒ ⑩ 常夜灯と道標 ⇒ コミュニティセンター(解散)  
秋葉権現で久保池様から丁寧なご説明を受けた。コミュニティセンター帰着後、  
会員の十川さんからの差し入れのサツマイモをおみやげにした。天候は秋晴れ。

配布資料等: ウォーキング計画概要  
鹿ノ井出水パンフレット

太田南探訪MAP  
記念バッジ



## 1 2. 太田中学校 1 年団 地域交流学習への協力

(1) 日 時 2022 年 11 月 17 日 (木)

8:30~9:00 2F 会議室集合→教室へ移動、挨拶

9:00 コース説明後、出発 ~11:40 中学校着、教室で意見交換

(2) 資 料 計画概要、太田南探訪MAP、鹿ノ井出水パンフレット

(3) 参加者 生徒 30 名 (3 班に分ける)、教師 1 名、太田郷土誌史研究会 8 名  
(1 班：中澤、真鍋、三浦 2 班：明石、伊澤 3 班：安藤、古澤  
廣田八幡神社で説明：大住)

(4) 学習コース

- ① 太田天満宮・太田城跡 (発掘調査写真) ⇒② 前田家の長屋門 ⇒  
③ 若宮御神体出土地 ⇒④ 廣田八幡神社 (トイレ) ⇒⑤ 上免出水 ⇒  
⑥ 光臨寺 ⇒⑦ 西法寺のお成り門 ⇒⑧ 孝子甚兵衛の墓・太田だいこん  
⇒ 皿井公園 (トイレ) ⇒ ⑨ 牽牛屋敷 (西法寺河野家の墓地) ⇒  
⑩ 合子出水 ⇒⑪ 金毘羅さん ⇒ ⑫皿井出水 ⇒ ⑬庄助洞出水 ⇒

太田中学校

晴天に恵まれ休まず回り、11 時前に皿井公園に到着。⑨、⑩、⑪の 3 か所を追加。



## 第Ⅱ編 調査研究編

## 2. 調査研究

## (1) 太田城発掘調査報告 (その2)

安藤みどり

太田城跡はかつての太田村にあったという中世の城跡である。

昨年度の6・7月に太田城跡の一面で高松市埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われたことは、『太田郷土史誌研究会活動報告書No.6』の「太田城跡の発掘調査観察記録」として報告した。市埋蔵文化財センターは、その報告展示を今年度の前期に「令和3年度遺跡発掘調査報告展」として実施した。その展示から新たに分かったことを追加で報告したい。

太田城については、江戸時代の『全讃史』に「太田犬養三代の城」とあるだけで、他に記録もなく、多くの謎に満ちている。初の本格的発掘調査ということで、どんなことが分かったのだろうか？



太田城跡 条理地割を利用した1辺109mの方形で、周りを堀（水路）で囲む

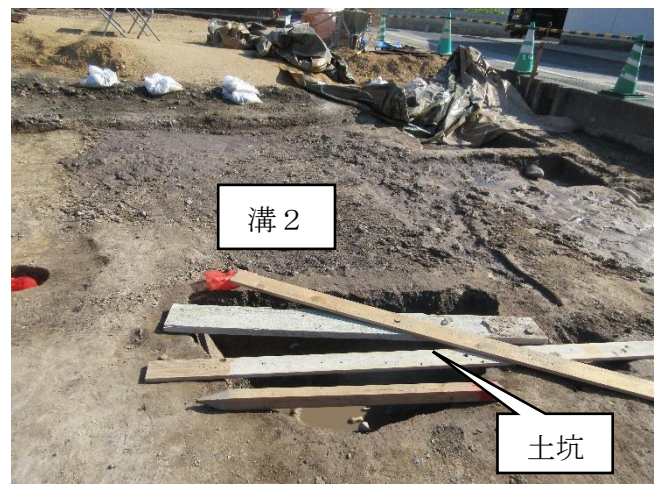


展示パネルより転載

## 1 南北に伸びる2本の溝

わずか54㎡という狭い範囲の発掘であったが、多数の柱穴や石組み、遺物が出土したようだ。そのほとんどは近世以降のものだが、近世の土坑や石組遺構の下から2本の溝が発見された。(遺構配置図の溝1と溝2) 2本の溝は近世以前のもので、太田城の西境界線に沿ったように南北に伸びる様子から太田城の西側の堀であった可能性がある。

出土遺物の年代から、溝2は17世紀前半(1620～1650年)、溝1はそれより以前に埋没していたと考えられ、太田城は遅くとも17世紀前半には廃絶したようだ。



## 2 近世の柱穴や石組遺構と遺物

『活動報告書№6』で報告したように、大小2つの石組みは、西側の水路から導水路を使って水をためておく施設である。石組みが溝1の中に作られていることから、使われなくなった堀を利用して作られた水場（溜井ためい）であったと考えていいようだ。展示では石組みは「18世紀前半以降に作られ、その後何度か改修され、近世後期～近代に埋没したと考えられます」とあった。明治20年ごろの地籍図では、この一画は水田となっている。いつ石組みを埋めて水田化したのだろうか。



石組みには豊島石の石臼の半片が使われていたが、もう半片も石組みのどこかで見つかったようで、展示ケースに両片合わせ展示してあったのが面白かった。

また江戸時代、この地に暮らした人々の生活の様子を物語る様々な出土品（鉢、甕、羽釜、すり鉢などの破片）が展示されていた。



展示された出土遺物



## 3 分かったこと

まず第一に、今回の発掘調査で太田城の存在自体がはっきりした。城の西側の堀が見つかり、城がいつできたかはいまだ不明だが、17世紀前半には既に廃絶していたことが分かった。

その後、この地はすぐに水田になったのではなく、建物があり、水場を利用して生活する人々の暮らしが少なくとも明治時代が始まる頃までであったようだ。多くの出土遺物からこの地に住み続けた人々の暮らしぶりがうかがえる。

天候に恵まれた4月、城ガールの水野さゆりさんの案内で別所家ゆかりの百相城を訪ねた。(まちかど漫遊帖戦国の城跡を歩く④仏生山「百相城」の巻への参加) 水野さんは『ふるさと仏生山—創立百周年記念誌—』に掲載された「百相城古図」を基に、何年もかけて百相城域を歩き、古図記載の神社や遺構を探したそう。 「仏生山百相城図」はその成果を基に作られたものである。

この辺りは昔百相村と呼ばれていた。明治23(1890)年に百相村と出作村の一部が合併して新百相村となり、さらに明治31(1898)年町制を施行し、法然寺の山号をとって仏生山町(香川郡仏生山町)とした。その際旧村名を大字として残さず、旧百相村地区を仏生山町甲、旧出作村地区を仏生山町乙としたため、大変残念なことに現在「百相」の地名はどこにも残っていない。

### 1 百相城

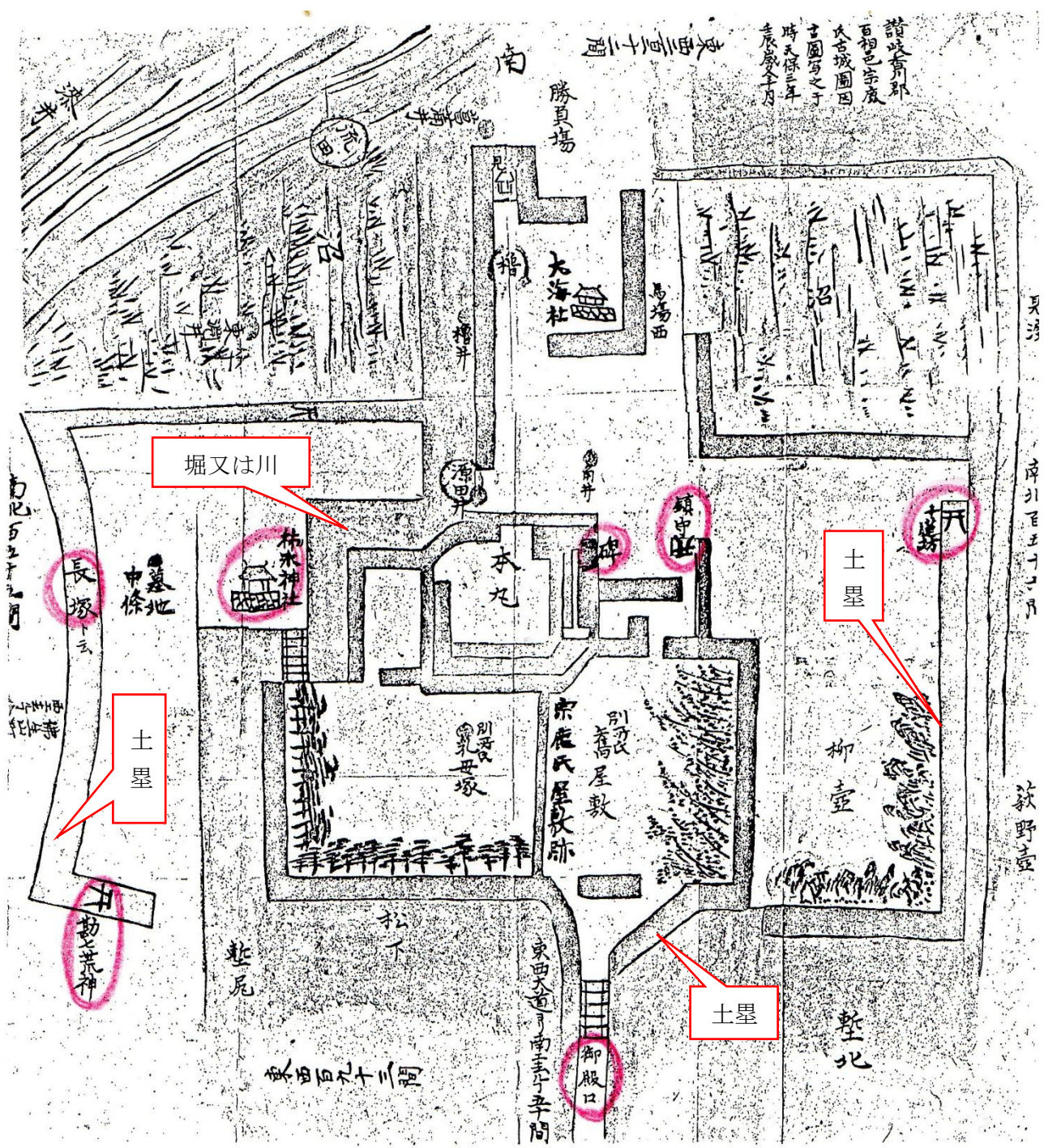
百相城はもと河西氏の居館であったようだが、戦国時代には宗鹿(そうが)氏の居館となった。その頃の百相城は古図の「宗鹿氏屋敷跡」「別所氏舊屋敷」とされている部分に相当し、東西59間(106m)、南北50間(90m)(注1)ほどの規模であった。

慶長2(1597)年別所長行が百相城に入り、城主は宗鹿氏から別所氏に変わる。別所長行は播磨国三木城主別所長治の遺児。「三木の干殺し」とも言われる三木合戦(1578~158)で羽柴秀吉と戦い、1年10か月に及ぶ籠城戦の末、城兵の助命と引き換えに城主別所長治はじめ一族はすべて自害して果てた。その時辛うじて城を落ち延びた母と長行はやがて讃岐国に移り住み、宗鹿広茂の女を娶るといって城主となったようだ。

別所長行は慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いで東軍として参加するものの討ち死にした。百相城はその子孫が継承し、2代長敬のときに宗鹿氏の居館の南東に別の曲輪を設けそれを本丸とした。本丸は四方に土居と堀を廻らし、内法が東西36間(65m)南北42間(76m)あった。この地は現在「城墟」という小字名が残っている。

天保3年の「百相城古図」を見ると、城の大きさは東西193間(351m)南北156間(284m)。江戸期には、この広大な敷地を別所一族の屋敷地としていたようだ。別所本家の屋敷は周囲に堀を廻らし、1町(約109m)四方の広さであったと伝えられている。明治20年の大晦日の夜半、勝手口から火が出て、残念なことにこの別所屋敷は燃え落ちてしまった。正月の餅つきの火の不始末が原因と言われている。

(注1) 1間は約1.82m。 1町は約109m。



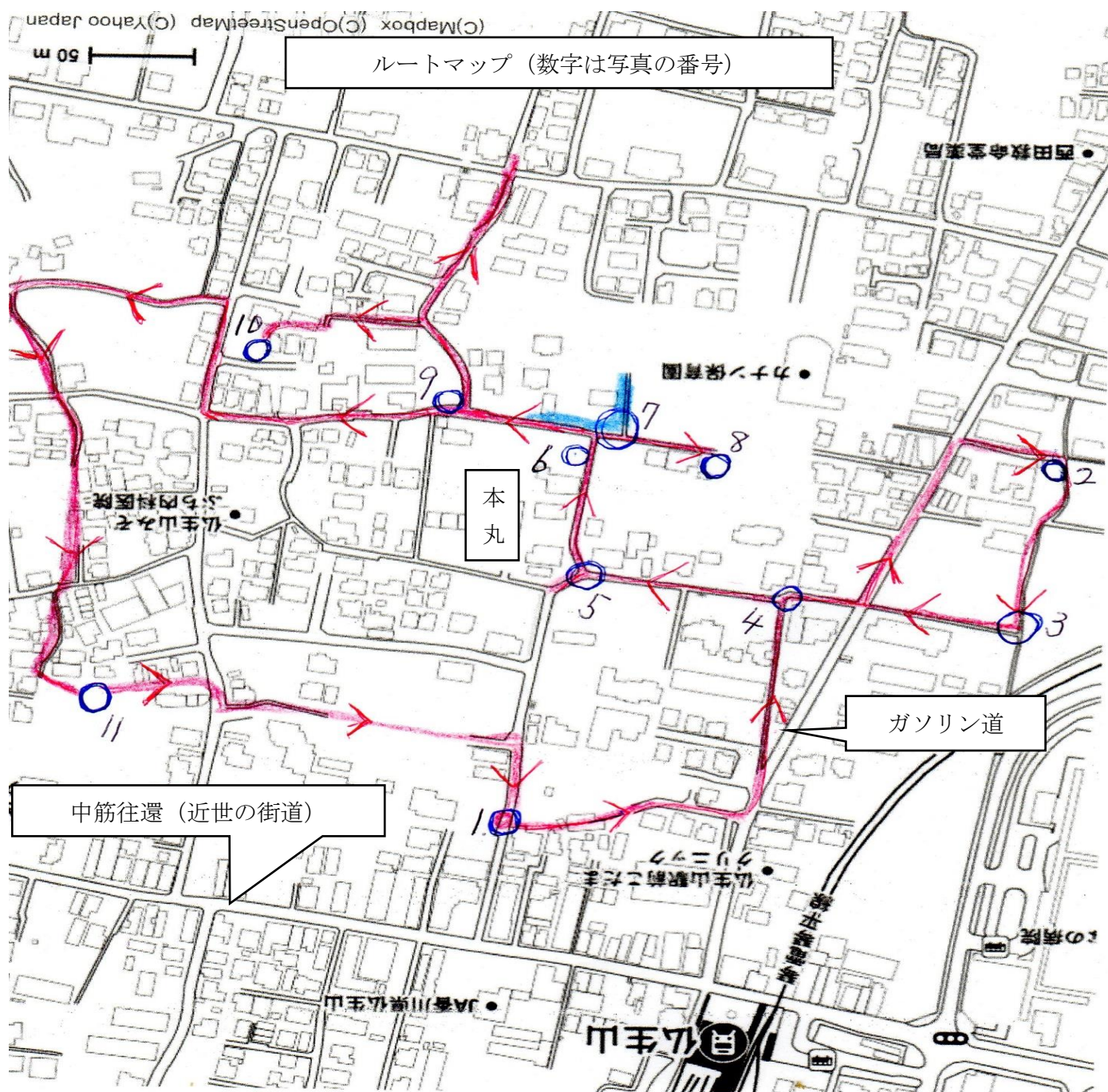
「百相城古図(別所氏所蔵)」天保3年10月に写したもの。  
 加筆は筆者。赤丸で囲んだ神社などを現地で確認した。

## 2 百相城跡を巡る

出発点は琴電仏生山駅。駅前を東西に通る道は古代の官道南海道であるといわれているが、実際の南海道は約100m北のラインを通っていたようだ。最近、萩前・一本木遺跡の発掘調査でこの推定南海道と同じ方向に伸びる溝が発見された。これは道路の側溝と考えられることから、間違いなく南海道であることが証明された。

当日のルートマップとポイントでの写真を紹介する。ルートマップの地図は「百相城古図」にあわせて上を南にしている。

南







1 「御殿口」から城入り口方向を望む（「東西大道ヨリ南五十間」東西大道は近世南海道で江戸時代の中筋往還。50間は約90m）



2 「十蓮坊」現在は十蓮坊祠として祀られている。城の西の端土塁上に祀られていた。現在も周囲より盛り上がったところにある。

3 西端の土塁 現在も東側（城の内側）より高くなっている。



4 道標 →方向が仏生山法寺へ至る古道



5 本丸を囲む石組（石垣）か？かつてはここに別所家の番頭格の屋敷があったという。



6 本丸西端にある「百相城城墟」碑 隣に立つのは「別所九兵衛功德碑」



7 本丸跡の南の堀跡跡

8 (左) 城の鎮守、今も祠がある。(右) 鎮守の南には馬場があったという (字馬場)



「流田地蔵」この辺りが沼地や流田があったところだろう。

9 「川中地蔵」昔、地元の百姓が川ざらえをしていたところ、川底からお地蔵さんが出てきた。そこで川の側にお堂を立ててお祀りしたそう。横にある馬頭さんは文政5（1822）年の銘があり、川中地蔵はそれより古いことは確実だという。お堂の横の南へ行く道はまるで川のように大きく曲がっている。おそらくそこが大きな川（堀）であったのだろう。



10 「柿木神社」細い道をたどっていった先にあった。水野さんが見つけるのに一番苦勞した所だという。昔は柿木が10本以上あったというから境内も広がったのだろう。今は周りを住宅に囲まれ窮屈そうだ。祠の裏に古い破損した祠が置いてあった。



11 「勘七荒神」長塚の跡と思われる細い道を辿った先にあった。ここが城の西北の端だったところ。



### 3 別所氏と太田村

江戸時代、別所一族は百相村に住み続け、別所包政（元禄7（1694）年没）の時に高松藩より三名、百相、出作村の庄屋に任ぜられた。その孫で、庄屋として三代目が別所九兵衛包好（かねよし）で、備蓄米を増やして飢饉に備えるなどの功績を認められ、宝暦14（1764）年三村の庄屋のほか、香川郡東八か村の大庄屋を兼務した。天明2（1782）年の大暴風雨、天明4年から8年にかけての天明の大飢饉の際には、自分の倉から300石の米を出して炊き出しをして、自分が預かる郡内からは一人の餓死者も出さなかったと伝えられている。

それから30年余り後の文化5（1922）年前後、またもや高松藩では干ばつなど災害が続いた。その時、包好の跡を継いだ甥で養子の長壽（ながとも）も大庄屋として備蓄米を郡内に分配して、一人の餓死者も出さなかった。

それを伝え聞いた9代藩主松平頼恕（よりひろ）は、長壽に命じて九兵衛包好の徳を讃える碑を建てさせた。それが現在も別所屋敷跡に建つ「別所九兵衛功德碑」である。

太田村の真鍋氏は、9代六十郎達好が文化5年に帯刀を許されている。さらに文化7年大庄屋補佐となり、その後代々庄屋を務めたという。おそらく大庄屋別所長壽とともに村人救済に尽力した功績が認められたのだろう。

太田上町寺ノ元にある浄土真宗の寺、西法寺本堂前に立つ二基の灯籠は別所包好・長壽父子が寄進したものである。「安永三年」（1774）「別所包好、同長壽」の銘がある。

西法寺は太田村だけでなく多肥などにも檀家が多かったそうなので、その関係かと思われる。

また法然寺参詣の折、藩主らが立ち寄り休憩した書院の建造には、別所家の援助もあったそうだ。

明治になっても別所家は大地主として健在だった。別所達次郎は、当時の太田村の「地押筆数人別控帳」（明治 21（1888）年調、太田郷土史誌研究会蔵）によると太田村に 44 筆の田畑を所有している。

太田村と別所家とのかかわりはまだまだありそうである。



西法寺本堂前に立つ二基の石灯籠 竿の部分に包芳と長傳の名が刻まれている。

#### 参考文献

『ふるさと仏生山』（平成 4 年 高松市立仏生山小学校創立百周年記念事業実行委員会編集）

『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』（2003 年 香川県教育委員会）

『太田農協史』（昭和 55 年 太田農業協同組合編）

### (3) 良田郷の湧水めぐりと遍路道に行く

安藤みどり

9月3日(土) いなおき会(注1)の方の案内で、“てくてくさぬき”「良田郷の湧水めぐりと遍路道に行く」(注2)に参加した。土器川の扇状地性平野(新見治氏による)である丸亀平野も出水の多い地域である。案内された3つの出水を中心に、出水の現状や保全への努力の様子をレポートしたい。

(注1) 善通寺市で活動するまちあるき団体。善通寺市観光協会に協力して様々なまちあるきを実施している。

(注2) かつての多度郡良田(よしだ)郷。江戸時代には上吉田村、下吉田村、稲木(いなぎ)村が属した。なお、生野(いかの)村は生野郷に属した。現在はすべて善通寺市の町名として地名が残っている。

#### 1 当日のルート



当日 9 時善通寺駅を出発、ルートマップの赤線にそって金蔵寺駅まで約 4.5 km を歩いた。

途中、75 番札所の善通寺から 76 番札所金倉寺へ行く遍路道を通りながらの歴史ウオークであった。

遍路道に立つ道標。右端は真念（注 1）が立てた道標



文献によると、幕末期の善通寺市内には 100 か所余りの出水があったそうだ。今は確認できるのは 81 か所。ここでも小さい出水、使われなくなった出水は消滅していつている。

丸亀平野といえば土器川や金倉川が流れ、金倉川の上流には満濃池があるので、河川灌漑や満濃池からの水で田を潤していると考えがちだ。だが、高松平野同様ここでも扇状地全体に多くの出水があり、まず田に入れる水は出水の水だという。出水の水は水路を通してため池に溜められ、田へと引かれる。（注 2）

この豊富な水は、水道が普及する前は飲料水・生活用水などにも利用され、現在でも農業用水の補助水源として利用されている。

（注1） 江戸時代初期の人。「四国遍路の父」といわれ、四国八十八か所を 20 回以上歩いて巡拝し、四国遍路について現存する初めての旅行案内書と言われる『四国邊路道指南』（しこくへんろみちしるべ）を出版した。標石を 200 基余り造立したといわれ、24 基が現存するといわれる。

（注2） 昔の土器川は現在の金倉川付近を流れていたと推測されるので、金倉川沿いは地下水脈が豊富だという。

## 2 二頭出水（ふたがしらですい）



街中の水路

最初に訪れたのは JR 善通寺駅の南東にある二頭出

水。さぬきの名水にも選ばれた市内最大規模の出水で、古くから上吉田、下吉田、稲木村の農業用水として用いられるとともに、善通寺市の重要な水道水源にも利用された。二か所から水が湧き出ていることから「二頭」と呼ばれている。(看板より)

生野村にあったにもかかわらず、取水権は北隣の上吉田村や下吉田村、稲木村にあったとか。そのため干ばつ時には水争いが度々あったそうだ。鹿ノ井出水と同じような事情である。

さすがに大きな出水である。現在は桜を植えベンチを置き親水公園となっていて、水辺まで下りる石段がある。水面まで2・3mはありそうだ。鯉などの魚もいるようだが、水辺まではだいぶ深く、小さい子供が一人で降りていけるようなところではなさそうだ。土曜日だったが、人影はなかった。

今も豊かな湧水は健在で、水路を通して街中へ、さらに下流のため池や田まで流れていく。まだまだ現役の出水である。



3 おおいゆう  
大井湧 (上湧・下湧)



下湧1、 地下の水脈からどどん水が湧き出ている



水路の横に「大井湧跡」の石



下湧2

遍路道を東



に行くくと右側に石神神社と吉田八幡神社がある。吉田八幡神社はかつて良田郷全体の氏神であったという。

大井湧は石神神社の道を挟んだ北側にあった。上湧と下湧の二つの出水があるが、西側の上湧は澱んでいて水の流れはほとんどない。釣り人が一人いた。

対照的に、下湧は豊富な水が湧き、水の透明度は市内有数だそうだ。水辺にも降りやすい。とてもきれいで冷たい水が流れていて、小さい魚もたくさんいる。ここは子供の遊び場としてもいい環境である。

ただ、周りに1本の木も無く、二つの出水の間の地面には黒いシートのようなものが敷かれている。案内人に聞くと、年に2～3回藻や土砂を浚い、出水の横に積み上げてトラックで運ぶのだそうだ。

公園化どころか、今まさに現役で活躍している出水である。右の地図のように、大井湧の湧き水は下吉田町さらには遠く多度津にまで配水されている。



#### 4 ながいのしみず 永井清水 (榎木湧)



この木の下から湧水



石垣で整備された出水で、階段を降りるときれいな水に触れることが出来る。魚が泳いで

いて水路の向こうにあずまやが見える。住宅と道路に挟まれているためか木は植えられていない。近所の人のお話によると、隣家の木下から水が湧き出ているそうだ。江戸時代には、丸亀京極藩の藩主が休憩する「お茶屋」があったほどきれいでおいしい湧き水で、昔は飲料水としても利用されていた。現在は「下流に広がる約 17 町歩の水田を潤し」ている。(看板より) 水路はまっすぐに北へ向かい主に多度津町に配水される。これも現役の出水(湧水)だ。

江戸時代末期には多度津の田は満濃池の水ではなくこれら出水の湧水で潤し、再び満濃池の配水を受けるようになったのは昭和 35 年になってからだという。(注 1)

出水の維持のため、自治会が月 1 回清掃をしているそうだ。近所の人や子供たちが集まる憩いの場にしようとしているようだが、人影はなかった。

(注1) 昭和 34 年に満濃池のかさ上げ工事が完成し、貯水量が現在の 1,540 万立方メートルとなった。

## 5 出水を守るために

豊かな湧水で潤ってきた丸亀平野でも、香川用水をはじめとした灌漑施設が整ってくると出水の役割は小さくなり、維持管理も難しくなって荒れ果てたり、土砂などに埋まって枯れてしまった出水も多い。

今回巡った 3 つの出水は、今も田に水を送り続ける現役の出水である。出水の維持管理のための第一の条件は、その出水の水を農業用水や生活用水として使い続けることだろう。

しかし、太田南地区のように田がどんどん宅地となっているところでは農業用水としての利用は減少し、それにつれて出水も地域から忘れられていく。そこで大事なものは、出水の存在意義を新たに地域の人たちが発見することだろう。

たとえば、庄助洞出水はザリガニ釣り知られている。ザリガニ釣りをした子供は大きくなっても庄助洞出水を忘れないだろう。

鹿ノ井出水は親水公園であるだけでなく、桜の名所となっている。

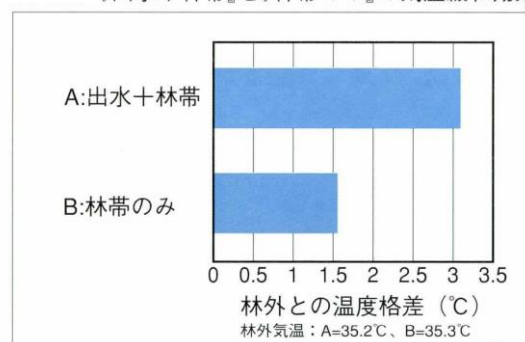
善通寺の出水について調べていたら、興味深い調査結果がのっていた。(注 1) 近畿中国四国農業研究センターの細川雅敏さんによると、出水には暑さを和らげる効果がある、というのである。飯山町での調査によると、林の中は外気より約 1.6 度気温が緩和され、林に囲まれた出水では 3.2 度も緩和されたそうだ。(右のグラフ) また、出水だけでは気温緩和効果は得られないそうだ。

出水の周りに樹木を植えれば夏の暑さをしのぐ憩いの場になりそうだ。気温より 3 度以上低いとなれば、近所の人たちが集まって世間話をし、子供たちが冷たい水に歓声を上げて遊ぶ場になる。

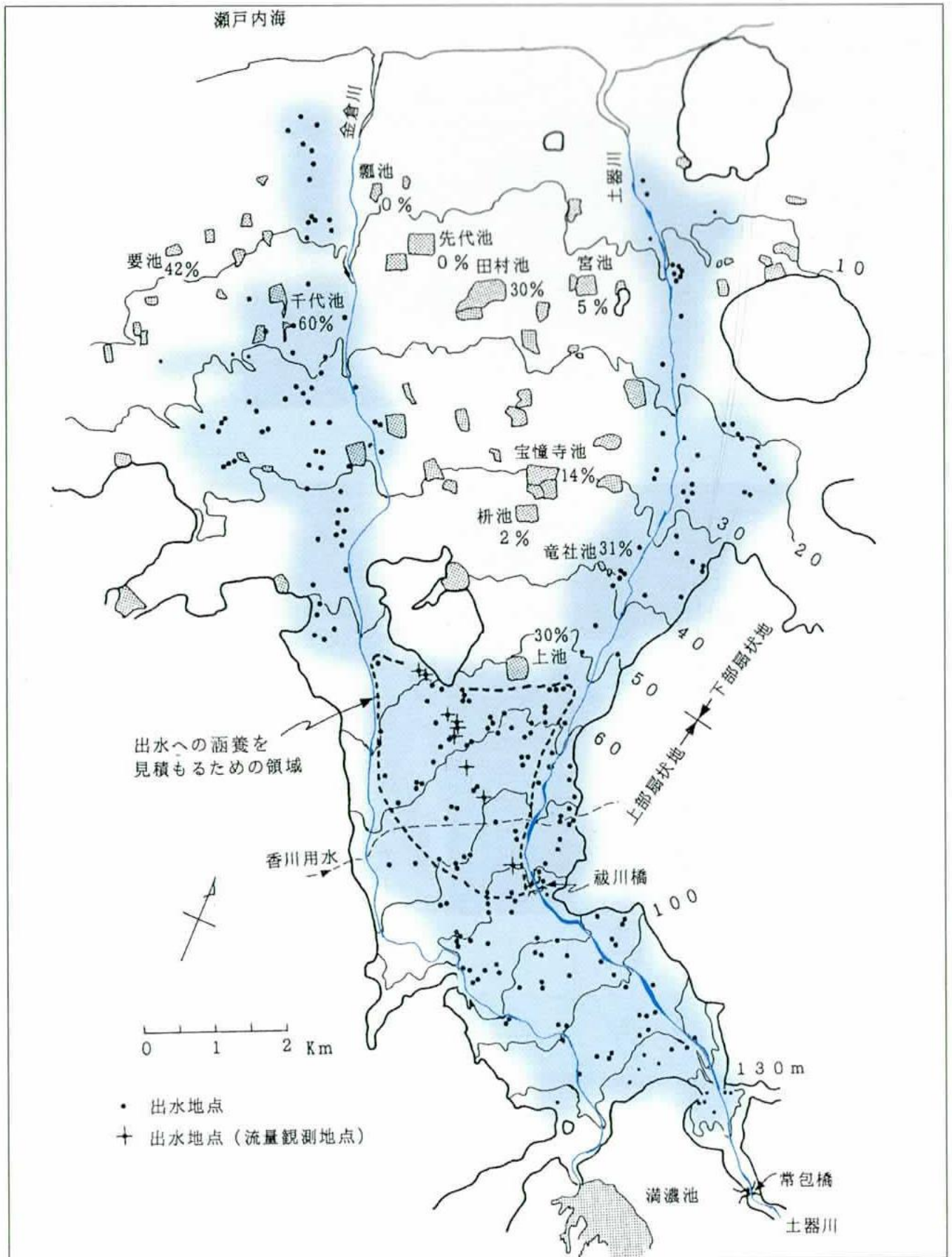
鹿ノ井出水だけでなく、例えば皿井公園の皿井新出水の周りに樹木を植えてベンチを置いてはどうだろうか。あずまやよりは涼しい木陰になりそうだ。

(注 1) 平成 16 年 9 月号広報ぜんつうじ特集「水香るまち」『出水』の真相と意義～インタビュー」より。次のページの(参考 1)も同様。

『出水+林帯』と『林帯のみ』の気温緩和効果



# 【参考1】丸亀平野における出水の分布



## 編集後記

活動報告書は、毎年度の活動を記録するとともに、調査・研究した成果を整理・保管することにより、研究会の活動の成果を積み重ねていくこととしています。

この趣旨から、報告書の構成を「活動編」と「調査・研究編」に分けています。

2022年度は新型コロナウイルスの脅威も残る中、太田郷土史誌研究会でも油断することなく、3密回避とマスクの着用、太田南コミュニティセンターの努力のおかげで、特に支障なく活動ができました。

今後、これまで積み上げられた調査・研究の成果を活用して、地域の将来の計画に役立てることが出来ればと期待しています。

本年度の活動報告書は、以下のメンバーが毎月1回会合や現地調査を行い取り纏めました。

明石豊重	東 秀憲	安藤みどり	伊澤貴大	井上和也	大住教夫
川田和秀	十川信孝	中澤健二	藤村雅範	古澤幸夫	真鍋正彦
三浦真里	山下智子				(あいうえお順)

事務局長 古澤幸夫